

# 「薩摩藩英国留学生記念館」とまちづくり

ー真に豊かな地域をつくるデザイン・プランナー

オフィス フィールドノート代表 砂田 光紀

## 1. はじめに

今を遡ること150年前の西暦1865年、薩摩半島西岸の羽島浦（現鹿児島県いちき串木野市羽島）に若き薩摩藩士たちが集結していた。彼らは2ヶ月ほどの滞在を経て、沖に現れたグラバー商会所属の洋式機帆船「オースタライエン号」に乗り込み、密航という手段で英国を目指す。後に日本の近代化に大きな功績を残すことになる、いわゆる「薩摩スチューデント」の密かな旅立ちであった。



薩摩藩英国留学生記念館（いちき串木野市羽島）

2014年7月20日、彼らが出発した羽島浦の海岸沿いに薩摩藩英国留学生記念館が開館した。近代日本の黎明期を象徴する彼らの旅とその後の功績を顕彰するために、いちき串木野市が企画したミュージアム施設である。公共施設ということもあって市役所に担当課が定められ、構想、計画、設計と事業は推移する。縁あってこの事業に参画することになったが、発案者でありプロジェクトリーダーでもあるいちき串木野市の田畑誠一市長はこのようにオーダーされた。「若き藩士たちが命がけで密航までして学んだ志の高さとその功績について広く人びとに紹介して欲しい。とりわけ、これからを担う若者たちに夢や希望をもって挑戦することの大切さを伝えて欲しい。さらに、羽島をはじめいちき串木野市全体の交流やまちづくりの拠点として機能させて欲しい。」前段はまさに博物館施設として担うべき機能であり、施設計画に反映させるには明解なテーマである。しかし後段についてはいささか特異なミッションである。羽島という地域は串木野市街地から北へ車で約15

分。薩摩川内市との市境近くにあつて、バス便も少なくアクセス不便なところである。したがって特に市外からの来館者はそのまま観光客であると解釈することもできよう。加えてそこに交流を生み、まちづくりの拠点にするにはどうしたらよいのか。単に博物館として建物や展示をつくるだけではこの目標は達成できない。そもそも「まちづくり」とは何なのか。普段からそのような言葉を使う事業に携わり、講座講演の機会を得てはいるものの、ここでは改めて本質を考える必要があると感じた。

本論は薩摩藩英国留学生記念館の開館に伴う官民の枠を超えた挑戦と、地元住民による積極的な企画、協力、事業に関する事例報告である。

## 2. 目的と意義から地域での取り組みを考える

わが国では地域活性化を謳い、日々さまざまな戦略や施策が企画され、自治体、コンサルタント、有識者、学生、NPO、企業、そして地域住民がこれに参画し、いわゆる「まちづくり」が行われている。大抵の場合、その主たる目的は人集めであり、金集めである。また、地域をブランド化するという謳い文句でPR活動やキャラクターづくりに注力し、特産品開発やその売り込み、観光客誘致に余念がない、これが日本全国の地域活性化戦略の実像であろう。もちろん、イベントやキャンペーンを通して自らの地域アイデンティティを自覚し、発信することも重要視されているだろう。そのこと自体に何一つ口を差し挟むつもりはない。ただ、いずれの地域においても「地域をどうしたいのか」「どんなまちをつくりたいのか」を議論し、その未来像を共有しなければ、ただただ経済的な効果ばかりを追求し、それを成就したとしても本来のまちづくり、地域活性化を達成したとは言えないとも思える。すなわち、地域の豊かさを求めるならばその豊かさの実像や意義を議論しなければベクトルを共有できないというのが「まちづくり」に関する基本的な考え方と理解したい。そもそも「まち」はつくるものではなく、できるものであることを歴史は証

明している。寺社があれば門前町が生まれ、城が造営されれば城下町ができる。計画的に都市を拓いても商圈が移れば「まち」も遷移する。多用される「まちづくり」という言葉にはむしろ再生や復興、復権といった側面も感じられるし、潜在的な地域力を掘り出すようなイメージもある。しかしてその実態は非常に多様で曖昧である。英訳が難しいのは定義が定まっていない証拠である。同様のことが「地域活性化」という用語にも当てはまる。地域の何を活性化させるのか、何が叶えば活性化したと言えるのかを十分に考え、目的意識を持たなければ、単に経済的収支で地域が得をしても、イベントで何千人もの人が集まってもそれは一過性のものとなり、あとに何も残らない可能性すらある。「まちづくり」「地域活性化」という魔法の言葉に踊らされることなく、自らの地域がどのような豊かさを求め、どこへ向かってゆくのかを住民、自治体が主体となって考えてゆかなければならない。

「地域の宝をさがす」という言葉がよく使われる。要は地域に潜在する価値を見だし、それを活用しようという手法だ。宝は時に歴史的痕跡であり、食文化であり、特産品や人材でもあり得る。言葉や歌といった無形のものである場合も少なくない。ワークショップという言葉を好んで使う人びとは、「まずは地域を知ろう」と呼びかけて地域のお宝マップなどを住民と協働して制作したりする。羽島の場合は、すでにかかなり以前から住民自らがいくつもの団体をつくり、薩摩藩英国留学生の顕彰はもとより、地域行事の推進やまちづくりのあり方、来訪者に対するもてなしのあり方などを自主的に研究、実験していた。そこで、薩摩藩英国留学生記念館の設立に合わせて、地域住民と施設との関係性を深めつつまちづくりや地域活性化を具体化するためのサロンを企画することにした。

### 3. 自腹と手弁当が人を変え、地域を変える

#### ～会員制文化サロン「羽島ナイト」～

通常、行政が呼びかけて施設づくりの説明会をする場合には公民館や役所の会議室を使い、行政側からの説明、住民からの意見や質問といったやりとりが普通である。検討委員会や懇話会などの名目で代表者だけがまとめて意見を述べる機会を設け、参加者に謝金を支給する例も珍しくない。これは「意見を拝聴しました」というお墨付き目当ての場合もある。しかし、本事業はそのいずれもあてはまる

ものではないと直感していた。地域の人びとの思いを聞くと同時に、将来あるべき姿をともに描き、それに近づけるための作業については当事者意識を持って参加してもらう必要があるからだ。そこでこれまで羽島では経験のない官民の枠を取り払った文化サロンを開催することにした。名付けて「羽島ナイト」である。最初は地元住民の中でも地域活動に積極的な方に趣旨を説明し、協力と声かけをお願いした。ただし、羽島ナイトには条件を3つ付けた。

① 会員制とし、2回目以降は会員が「この人なら誘っても良い」という人を連れてきて構わない。

〔補足〕これは、興味本位での参加や無責任な発言を避けるための方策で、参加することを誇りに思ってもらうという目的もある。

② 飲み物や軽食を提供するかわりに参加費（¥500 または¥1,000）を支払っていただく。場合によっては一人一皿（一品）ずつ持ち寄りとする。

〔補足〕参加費を負担してまで参加する人びとは本気で地域のことを考え、価値を共有しようとする人びとである。自治体が招集する協議などでは参加者に謝金を支払うなどして動員をかける例も少なくない。しかし、本来自分たちの地域を守り、振興することは住民の役割でもある。行政はその代行者に過ぎない。羽島ナイトでは場を和ませるために軽い飲食を用意し、その分の対価を集めることでやる気のある参加者を集めることができた。

③ 毎回トークテーマを設定し、会場はできるだけ会議室を避けて地元の面白い場所で開催する。時々、地域外からのゲストを招き、専門的な立場、客観的な立ち位置からの意見やアドバイスを拝聴する。

〔補足〕薩摩藩英国留学生記念館開館後には、さまざまな場面で地域住民の協力を得ることが必要となることから、それを見越したテーマ設定と、住民の意見集約を考えた。特にサロンを開催する「場」にはこだわった。地元の詰め所でもある「ふれあい館」や空き家となった古民家、個人宅など、いくつかの場を借りて開催。開館後は記念館のライブラリーで開催している。会議室ではなく、さまざまな会場で行うことは地域に潜在する良き場所を探すこと、活かすことにつながり、サロン自体を飽きさせない効果もある。

こうしたサロンのやり方に羽島の人びとはすぐに賛同し、魅力を探る」であった。  
てくださった。第1回の羽島ナイトは2011年9月5日に 以下は羽島ナイトの全テーマとスピンオフで行ったサロンの内容である。(参考資料1)  
地元の名士、富永家住宅にて開催された。そのテーマは、「もしも羽島にカフェをつくるなら・・・羽島の建築と景観の

## 羽島ナイト一覧（全14回）

- 第1回 もしも羽島にカフェをつくるなら・・・羽島の建築と景観の魅力を探る  
会場：富永家住宅
- 第2回 羽島を食べる、食べさせる ～もてなす食について語ろう～  
会場：漁民アパート1階 ふれあい館
- 第3回 羽島ストーン ～硬くて軟らかい石のおはなし～  
会場：羽島分団詰所2階和室
- 第4回 もしもあなたが Hashima クルーズの船長になったら  
～羽島で乗りたい船とみどころのおはなし～  
会場：漁民アパート1階 ふれあい館
- 第5回 羽島パティシエ・羽島シェフ ～感動を生む、こころづくしとしての食～  
会場：漁業協同組合2階
- 第6回 いまどきの集落あるき・・・羽島を伝える旅の演出を語り合う  
会場：漁民アパート1階 ふれあい館
- 第7回 貧乏葛の館をリッチな空間にしよう 羽島を語るカフェ・バーを夢見て  
会場：羽島集落「びんぼうかずらの館」＊その後、ふれあい館で軽い交流会
- 第8回 羽島サービスを考える 羽島・記念館来訪者をもてなす方法  
会場：お食事処「たもいや」
- 第9回 羽島ストリート・ビュー ヒトが集まる・・・魅力あるストリート  
会場：光瀬港前 梅北不可止氏旧宅
- 第10回 羽島ストリート・ビューその2 修景でつくる・・・どこにもない羽島ストリート  
会場：漁民アパート1階 ふれあい館
- 第11回 史上最大のお・も・て・な・し 羽島にお客さまを迎えるための具体策  
会場：漁民アパート1階 ふれあい館
- 第12回 開館に備えての準備協議 その1
- 第13回 開館に備えての準備協議 その2
- 第14回 記念館ロードマップ その1 ～にぎわいをもたらす魅力ある企画を考える～  
会場：薩摩藩英国留学生記念館

## スピノフ企画

第 1 回 羽島ハイク・・・歩けば見つかる良きふるさと・・・  
羽島地区ハイキング（コース未公開で開催）＋楽しいコーヒータ임

第 1 回 羽島カフェラウンジ エコール・ド・羽島パティシエ  
～楽しい楽しいお菓子計画～

会 場：羽島地区 尾崎京子氏宅

第 2 回 羽島カフェラウンジ 食の創造 in HASHIMA ～持ち寄りプレゼンテーション～  
会 場：漁民アパート1階 ふれあい館

羽島フォーラム・薩摩藩留学生記念館を語る  
住民力で動かす記念館 ～薩摩藩英国留学生記念館に欲しい地元パワー～  
会 場：羽島交流センター

## 4. 羽島ナイトの成果と住民の協力

このように、計画推進に際して当初から住民とともに語り合い、まちを歩き、課題を解決するために具体的な行動を計画する場を実現できたことは施設にとっても地域にとっても幸福なことであった。回数はすでに18回におよび、施設開館後も継続的に実施している。羽島ナイトにはいちき串木野市役所の職員も手弁当で参加し、住民の意向を汲みつつ開館にむけての協力体制や運営方針を検討する際に役立てることができた。

では、こうした羽島ナイトの成果として地域に何が起こったのかを列記してみよう。

### (1) 施設に対する理解と協力

羽島ナイトでは薩摩藩英国留学生記念館の計画段階から設計、施工に至るまで各段階での進捗状況や課題を説明した。参加者はその情報をことあるごとに住民に語り、地域住民は計画の概要を常に認識し、興味を持って事業を見守ることとなった。特に、建築工事の仮囲いが取れてからは地域住民の記念館への注目度が一気に上昇したが、それまで培った羽島ナイトによる情報共有によってすでに住民は自らがどのような分野でどう協力すべきかを把握しており、不要なトラブルを避けつつ適切な協力を得ることができた。

ところで平地の少ない羽島では空き地が限られており、

来館者向けの駐車場確保は当初より課題と思われた。この問題についても羽島ナイトでは何度も話題となり、薩摩藩英国留学生記念館の敷地に確保できない駐車場について、地域住民の理解を得て空き地を確保し、専用駐車場、臨時駐車場などを設置できた。

### (2) 地域の修景や環境づくりへの取り組み

これまでも羽島は薩摩藩英国留学生渡英の地として市外からのお客さまが訪れることが多かった。しかし市街地から遠く、アクセス不便であることもあってその数は限定的で、いわゆる観光地にはならず、来訪者視点での地域づくりが行われてきた要素は少ない。薩摩藩英国留学生出発の地に石碑などが建立されているものの、不特定多数のお客さまに羽島を楽しんでいただく仕掛けができていない状況ではなかった。そこで羽島ナイトでは羽島地区の修景や、こころ豊かに過ごせる環境づくりを意識したテーマでサロンを開催。他地域の事例を映像で研修しつつ、羽島の地にふさわしい景観形成について、自分たちでできることから提案し合い、実践した。その結果は下記のとおりである。

- ・自治体から塗料の提供を受け、関係機関の許可を得てガードレールを焦げ茶色に塗色した。  
同時にロードミラーの支柱についても住民自らがハケを持ち、同色に塗色した。  
周辺の雑木林を住民たちが枝打ちし、藪を払って眺望

を確保した。

記念館横の船溜まりの漁具やゴミを片付け、住民の手で清掃整備を行った。(写真1)

- ・地元自治会がその経費の中から沿線美化のためのプランターと植栽資材を購入した。

羽島小学校の協力を得て、親子が一体となってプランターに植栽し、沿線に設置した。(写真2)(写真3)(写真4)

羽島自治協議会の寄付による鉢を館前に設置し、住民

の手で植栽を行った。(写真5)

市が支給した館旗(小旗)を沿線民家に竹竿で設置し、集落ぐるみで来館者を歓迎した。

館前のひろばに館が所有する国際信号旗(航海旗)をロープで掲揚した。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

### (3) 薩摩藩英国留学生記念館への協賛

記念館に対して地元羽島の自治協議会として協賛資金調達を決定した。その資金源としてオフィシャルサポーターTシャツを製作し販売することが画策され、筆者が提供したデザインをもとに購買者を募り、地元を中心に400着近くを販売した。この動きに呼応して市役所の職員有志も購入、着用に協力した。オフィシャルサポーターTシャツは大きな収益を上げて館のイベント等に活用する基金を捻出したが、同時に世代を超えて羽島地区住民のユニフォームのようになり、館のオープンに向け、あるいはオープン後も意志の統一や雰囲気醸成に大きな効果を上げている。

### (4) 施設運営への協力と提言

記念館を健全かつ継続的な成功に導くには、施設の運営に対する地域住民の協力は必須である。幸いなことに羽島地区にはまづる漁船の乗組員を経て商船の船員としてはたらいた経験のある方が多く、潮風の強い当地で建物の塗装や金属の防蝕など、記念館のメンテナンスにその経験を活かせる方も多い。女性たちも同様に船や漁に関わる人も多く、清掃整備などの場面で活躍できる潜在的な能力を持っていた。羽島ナイトではこうした地域住民の力を結集し、開館後の施設運営への協力体制を整えていった。通常、この規模の公共施設では清掃を専門業者に委託するが多い。しかし本館では地域の女性たちによる「薩摩スチューデントお掃除協力隊」を結成。市から受託して館の清掃整備を一括して引き受けている(写真6)(写真7)。その清掃スキルは専門業者も驚くほどだ。それは自らの住むまちに開館した記念館を「自分たちのもの」として誇りを持って見ているからにほかならない。毎週の休館日に額に汗して磨き上げる彼女たちがいるからこそ、快適な記念館が維持されているのである。もちろん、ユニフォームのように彼女たちが着用しているのは、オフィシャルサポーターTシャツである。

### (5) 飲食・商品の供給とイベントへの参加

薩摩藩英国留学生記念館のもう一つの魅力は、館独自のカフェ・レストランがあることである。通常、地方の博物館施設に飲食機能を設けることにはリスクが伴い、これを担うことに対して地域住民が大きな抵抗を感じる場合が多い。本館の場合も計画段階からこの件はくり返し議論された。誰がやるのか、出資は？人件費は？はたして採算は取れるのか。食事処の少ない羽島において、食事や喫茶を提



写真6 (いちき串木野市奥ノ様陽介氏撮影)



写真7 (いちき串木野市奥ノ様陽介氏撮影)

供できることは大きな力になる。しかしその経営は簡単なものではない。結果として本館のカフェ・レストランは地元で大規模な牧場などを経営する住民が受託することとなり、自家製の肉や地元の野菜を中心に、市内有名喫茶店で焙煎したコーヒーや専属パティシエによる自家製スイーツなど、本格的な料飲提供が功を奏して人気を博している(写真8)。主力となる女性たちの気持ちを込めた「QueensCafé」のロゴマークが誇らしい。



写真 8

カフェ・レストランだけでなく、地元の婦人たちが羽島の地名にちなんだグループ「フェザープリンセス」を組織し、特産品開発や団体対応の食事提供などに一役買っている。開館以来、本館には団体来館者も多く、20 名を超える団体の昼食対応にはカフェ・レストランだけでは追いつかない。その場合、羽島地区交流センターを会場に食事提供を行う。また、同組織は羽島の民俗芸能をモチーフにしたグッズ製作や加工食品製造なども手掛け、館内ショップでの販売に供している。

館前のひろばなどを利用したイベント「薩摩スチューデント市」の開催時にはフェザープリンセスをはじめ、地域住民がテントなどの会場設営や飲食提供、特産品販売に協力している。



フェザープリンセス会員の協同製作による「さるぼぼ」  
(地元で伝承する魔よけ申をアレンジしたもの)

#### (6) 展示ガイドボランティアの醸成

薩摩藩英国留学生の歴史を来館者に伝えるには、幕末の日本あるいは南九州における歴史の流れや、19 名の留学生（薩摩スチューデント）の功績、人生などを把握してもらう必要がある。これを単純に展示解説や映像だけで行うにはいささか無理がある。そこで本館では、団体来館時ではもとより、通常も観覧のお客さまが多いと判断したときにはすぐに展示解説ができるようスタッフがトレーニングを積んでいる。しかし開館以来、予想を大幅に上回る来館者数を数え、館の職員だけでは追いつかない。そこで活躍するのが住民による展示解説ボランティアである。開館前のデモンストレーションで何度も解説を見てもらい、正確な情報に解説者本人が独自の解説法を加味して作り上げた展示ガイドである。こうした人の力による展示案内は好評で、本館の来館者醸成に大きな役割を果たしていると考えられる。

## 5. 地元企業や団体による「サポートカンパニー登録制度」

薩摩藩英国留学生記念館の活動を支援する大きな力として、地域住民に加えていちき串木野市内の企業や団体による「サポートカンパニー制度」をつくった。この制度は協力企業や団体に単に館への支援をお願いするだけでなく、館の側からもメリットとなるサービスを提供することで、互いの関係性を良好に保ちつつ継続することを目的としている。

ちなみに 2014 年 12 月現在、登録サポートカンパニーの数は予想を大きく上回って 19 団体にも及んでいる。すでに 2 回のプレジデント・ミーティングと交流パーティを開催している。開館後の薩摩藩英国留学生記念館の推移を報告しつつ相互交流を深め、素晴らしいコラボレーション体制を構築できている。こうした支援組織が成立し、多数のサポート企業、団体が手を上げることは公立の博物館や文化施設では極めて珍しく、理想的な官民協力体制だと考えられる。

## サポートカンパニー登録制度規約

### 薩摩藩英国留学生記念館サポートカンパニー登録制度規約

(サポートカンパニー登録制度の目的)

第1条 この制度(以下、制度という)は、薩摩藩英国留学生記念館(以下、館という)の健全かつ円滑な運営を補佐し、館の事業を民間企業等が協力して支援することを目的とする。

(制度の名称)

第2条 制度は薩摩藩英国留学生記念館サポートカンパニー登録制度という。

(サポートカンパニーの構成)

第3条 サポートカンパニーへの登録企業、店舗、団体等は、

1. いちき串木野市観光特産品協会加盟企業のうち、本制度に賛同する企業
2. その他、市内および市外の有志企業、店舗、団体等 によって構成する。

(サポートカンパニーの登録)

第4条 制度への賛同企業、店舗、団体等は別途定める薩摩藩英国留学生記念館サポート実行委員会にサポートカンパニー登録申請書を提出し、認定されなければならない。

(サポートカンパニー登録料)

第5条 サポートカンパニーは登録料として初年度5万円を登録料として納付し、以後、毎年の更新ごとに2万円を支払うものとする。

(サポートカンパニー登録事務)

第6条 サポートカンパニー登録に係る事務および経理は薩摩藩英国留学生記念館サポート実行委員会が行う。(別途、薩摩藩英国留学生記念館サポート実行委員会規約に定める)

(サポートカンパニーの役割)

第7条 登録によって生じるサポートカンパニーの役割は次に示すとおりである。

1. 運営(企画展、イベント等)に対する協賛  
館主催の企画や催事、活動を支援することを目的に年間登録料を支払う。登録料は実行委員会が規則に基づいて適切に館の支援に充てる。
2. 広報活動への協力(ポスター掲示、パンフ配属)  
館の広報活動を支援するためにポスターの掲示、チラシ等の配布、企業、店舗内でのPR活動や顧客対象のPRなどを行う。
3. オリジナル商品開発や販売への協力、アドバイス  
館内のショップで取り扱う商品の開発や製造への協力、自社製品を活かしたPB商品づくりに対応する。
4. イベント時の積極的な出店や商品提供  
館やその周辺を使って行われるイベントや市場などのオリジナル企画開催時に、積極的な出店、出品を行う。

5. 観光ルートづくりへの相互協力、送客努力

館を中心に、新たないちき串木野観光のルートを形成する為に互いの施設、店舗を受えた観光送客の努力をする。

(サポートカンパニーの特典)

第8条 登録によって生じるサポートカンパニーの特典は次に示すとおりである。

1. 館内にサポートカンパニーとして企業名掲示  
記念館ライブラリーにサポートカンパニー登録企業の名称を掲示し、地域への文化的貢献を顕彰する。
2. 館名ロゴ、マーク、写真等の使用権  
サポートカンパニー登録企業に対して優先的に館名ロゴ、マーク、写真等の使用申請を受け付ける。館名ロゴやマーク、写真等は個別に申請した上でサポートカンパニーの製造・販売する商品、印刷物等は無償で利用できる。
3. 館内ショップでの優先的商品取り扱い  
薩摩藩英国留学生記念館内のショップで自社製品を販売する優先権を得ることができる。なお、販売対象商品の詳細については協議の上、決定する。
4. イベント時の出店優先権  
薩摩藩英国留学生記念館内や記念館前ひろば、周辺道路を使ったイベント、市場等の開催時に優先的に出店できる。自社商品等の出品も許可する。
5. 特別優待券(年間無料利用パス)発給  
1 登録団体に対して1枚(1回の来館時に5名まで無料で利用可能)の特別券を発給する。サポートカンパニーは福利厚生やお客さまへのサービスに本券を利用できる。

(サポートカンパニー登録の抹消)

第9条 サポートカンパニーの登録は次に示すような場合には抹消される。

1. 年度更新が行われなかった場合、もしくは登録抹消を申し出た場合。
  2. 登録サポートカンパニーに公序良俗に反する行為があった場合。
- なお、年度途中で登録抹消を申し出た場合や、第9条2の対象となる場合には登録料は一切返還しない。

(制度の事業年度)

第10条 この制度の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

附 則

この規約は平成26年7月1日から施行する。



## 6. おわりに

薩摩藩英国留学生記念館は開館以来5ヶ月ほどで3万5千人の来館者を迎えている。もちろん羽島地区においてこれほどの集客が図られたのは史上初のことである。密航渡英の末に、日本の近代化に大きく貢献した薩摩スチューデントたちの物語は多くのお客さまを羽島に引き寄せ、地域にも誇りと自信がみなぎってきたように見える。しかし公共施設の価値はそれだけでは計れない。そこに育つ子どもたちの心に何を残すのか、地域に記憶を刻み、これからのまちづくりにどのような方向性を授けるのか。羽島ナイトのテーマは尽きることがない。館の健全運営と地域住民の意識向上、そしてそのための交流を生む活動など、思想に満ちた新しい地域づくりの試みは始まったばかりである。

### 写真、イラスト

本文中に掲載の写真は注記あるものを除き、筆者撮影。イラスト、チラシデザインも同様





ちやうど平気で楽しく完成・・・

## 羽島ナイト part10

何だかんだで・・・どこにもない羽島ストリート

### 羽島ストリート・ビューその2

修繕でつくる・・・どこにもない羽島ストリート

そろそろ手を付けましょう。まずは「屋根」に付いて話し合ってみませんか？特に重要にする方は、美しく、魅力があってしかもまわりの景色を感じる空間づくりが求められます。「あそこはいいところだー」とお聞きながら和気運河に旅行していただく羽島にしきましょう！

Copyright © 2017 by Shigeo Kato  
Illustration by Shigeo Kato

日 時 10月9日(木) 19:00～21:00

場 所 ふれあい広場

定 員 約120名 ※参加費の徴収はございません。定員になりすぎたら一部でも抽選となります。

お問い合わせ先 富山県観光交流センター 企画課

〒930-8601 石川県金沢市大町1-1-1  
TEL (076) 235-2018 (直通)  
FAX (076) 23-3124  
E-mail [info@kankou.pref.fukui.jp](mailto:info@kankou.pref.fukui.jp)

# HASHIMA HIKE 2012



## 第1回 羽島ハイク

・・・歩いて見つける旅する姿・・・

富田県立富田高等学校(長野)の生徒が猫と通じながら、旅の魅力を語り、訪れるお客さまを通して活動を広げていたために、歩いて見つけるがめられています。そこで今回は、みなさんと一緒に記念撮影会やワークショップが猫を愛する、外からの視点で魅力を伝えるハイキングを行います。楽しく、ゆっくりとお客さまと歩くので、お時間のある方は、ぜひご参加ください。

**山 7/14** ①山田 13:00 ~ 15:00 ②雨天中止  
 会場 海城町の丘  
 集合 13:00 集合場所 13:15 集合  
 12:15 ~ 13:00 見学館ハイキング **ササシトローモナドナル**や  
 コースと本名を聞き、見つける旅をしよう！

参加費 無料  
 お問い合わせ  
 〒213-0231 090-4902-0454 山田 研修 090-7389-1829 山田

追加： 山田県立富田高等学校の生徒が猫と通じながら、旅の魅力を語り、訪れるお客さまを通して活動を広げていたために、歩いて見つけるがめられています。そこで今回は、みなさんと一緒に記念撮影会やワークショップが猫を愛する、外からの視点で魅力を伝えるハイキングを行います。楽しく、ゆっくりとお客さまと歩くので、お時間のある方は、ぜひご参加ください。

HAZUWA NIGHT 2013

羽島の暮らしと伝統を伝える  
**羽島フォーラム・海岸展望学生記念館を語る**

日 時 **3月6日(水)**  
 19:00~21:00

場 所 平島交流センター



今日のテーマ **住民力で動かす記念館**  
 海岸展望学生記念館に暮らす地元パワー

いよいよ訪れる羽島の暮らしがわかる新書  
 海岸展望学生記念館、今日は改めて  
 羽島のみならず全市の歴史を紐とす  
 ます。また、館の運営やなまきへホ  
 ーヌスへの参画、たまきから磯崎航  
 路について聞きま〜編に想いを込め、  
 羽島とたまき、羽島の発展のために、  
 そして家々のいもも多岐川、瀬田川、  
 日本さあに、ぜひお参りい合わせま  
 へ参加ください。

【入場】  
 無料  
 海岸展望学生記念館1階にて受付  
 会場にお飲みます〜バーズつけつけ  
 〜参加費は羽島のみならず全市と〜

お問い合わせ  
 〇多岐川 090-3527-0000  
 〇瀬田川 090-3527-0000  
 E-mail: info@hazuwa-night.com  
 Web: hazuwa-night.com

[illegible]